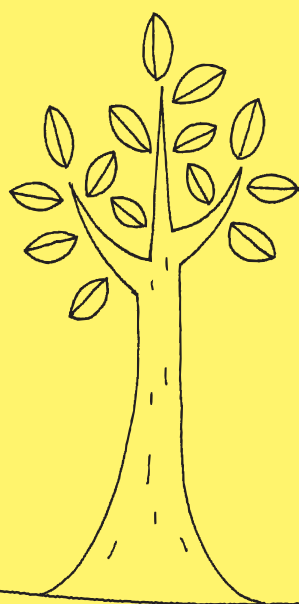


公立大学法人 静岡文化芸術大学「学生 × 地域」実践 BOOK

SUACTION

SUAC実践型×自主型の豊かな学び



スアック

SUACで

地域とつながる

未来へつながる



SUACでは、学生が社会と関わりながら、主体的に考え、行動する、
実践的な学びの中から新しい力を生み出しています。



自分たちが学んだ力で、社会をより良く変えていく、そんな人材を育てるために。
実践演習や授業、課外活動を通じて、実社会とつながり、学んでいく「仕掛け」がいっぱいある、
それがSUACです。
専門分野だけにとらわれない広い視野と、社会で役立つ基礎力を身につけていくことができます。
「やってみよう」という気持ちにスイッチが入る 何かひとつをまず、見つけて・・・
さあ、あなたも SUACでアクション!

キャンパスから飛び出して!
社会の“いま”を感じてみよう

アクティブに学ぼう



地域社会と関わりながら様々な課題への理解を深める演習科目です。課題を自ら発見し、主体的に考え、実際に取り組むことにより、リーダーシップや協調性を養っていきます。

ほうかご展
デザイン学部2年×名古屋と浜松のこどもたち ____p03

Go-yukkuri
企業×SUAC×イミル経済大学 ____p04

地域の企業や行政からの要望に応える形で、連携した授業やゼミも多数あります。地域おこしを盛り上げたり、実社会のプロジェクトに参加したり、体験を通して得た力は就職にも役立ちます。

舞台メイキング講座
芸術文化学科・学生×舞台公演「天人五衰」 ____p05

リノベーション デザインワークショップ
デザイン学部 学生有志×寺島レジデンス ____p06

「やりたいと思えば、何でもできる」が校風のSUACには、先輩たちが始めたイベントやサークルをはじめ自主的な活動がとても活発。学内だけでなく、地域や企業を巻き込んで、その活躍は多岐に渡っています。

タベボラ
学生有志×浜松市役所 ____p07

引佐耕作隊
船戸ゼミ×久留米市 ____p08

テーマ 実践演習



子どもたちと行ったワークショップ「そめいうちわ」の様子です。



布を食べ物で染めることで、染色文化をより身近に感じてもらうことができました。



プレゼンテーションの様子。全体の統一感を出すために試行錯誤を繰り返しました。



作品の一つ「LEAF x SOAP」。1回分の石鹸を葉っぱのカタチにすることで、子どもたちが楽しく手を洗えます。



名古屋での本展の様子。来場者ひとりひとりに説明をしました。

テーマ 実践演習



最終日の提案の様子。発表も質問もすべて英語で行われました。



企業のデザイナーを交えて提案に関する協議を行いました。



静岡の観光をリサーチ。バスの中でもミーティングが行われました。



最終プレゼン後、SUACの学生からトルコの学生にプレゼントとお別れをしているところ。この二人は同じ班で活動した同士。



最終プレゼンを終え、チームメンバーと企業のデザイナーとの記念撮影。

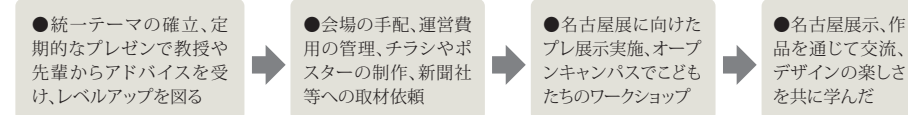
自分たちの作品を“見て触れて楽しんで”

SUAC×イズミル学生20人で取り組んだ1週間

デザインの楽しさも SUACのことも、知ってほしい

デザイン学部の学生8人が名古屋で個人作品展示会を開き、話題となりました。きっかけは、愛知県の芸大生による自主展示会を見て刺激を受けた学生が、「自分たちもできる」と奮起したこと。彼の出身地・名古屋でのSUACの知名度の向上も目指しました。“こどもが見て触れて楽しめる”をコンセプトに個々で作品づくりを進める一方、会場の手配やチラシの制作と配布、新聞社への取材依頼など、すべて自分たちで実施。6月に学内ギャラリーでプレ展示を行い、8月のオープンキャンパスではワークショップでこどもたちとうちわを制作、本番の展示会では6日間で306名の来場につながりました。こどもたちと実際に遊び、デザインの楽しさを共に学ぶという、学生たちがゼロから成し遂げた実践的な学びのプロジェクト。SUACの自由なフィールドの中で、様々なチャレンジが実現しています。

SUACの知名度の向上と、デザインの楽しさを伝える



実践による学びで、できること・身につく力

- デザインにより事を起こす力
- プロジェクトを成し遂げる力
- 個々のデザイン力を鍛える
- 広報のツール製作やPR方法
- 活動を報告書などにまとめ、発表する力

【個人制作展示企画】
こどものためのプラスなデザイン

ほうかご展

デザイン学部2年×名古屋と浜松のこどもたち



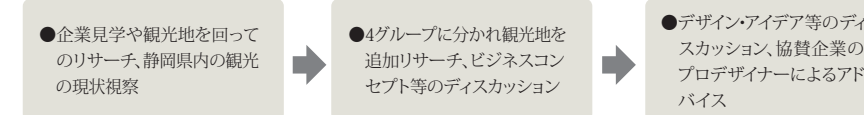
告知用ポスターを制作しました



デザインの国際交流を 英語の力でサポートしたい

SUACのデザイン学部の学生とイズミル大の学生とのデザインワークショップに、英語を得意とする国際文化学科の学生が、テーマ実践演習の科目として参加。日常会話の通訳をはじめ、観光地のリサーチ案内から、専門的なデザインの話まで、様々な場面でコミュニケーション力を発揮しました。1週間という限られた時間の中で、プロジェクトが円滑に進むように、グループ内の役割分担、時間配分、完成までのプロセス等、全体を見渡していくマネジメントも経験。企業の方を招いての最終発表の場では、スローモビリティのデザインをいかに伝えるかに重きを置き、デザイン提案について英語でプレゼンテーションを行いました。イズミル大の学生との異文化交流だけでなく、学びの分野が異なる2学部の学生がお互いに刺激しあえる貴重な機会になりました。

「静岡県の観光+スローモビリティ」をテーマに挑戦



産学協同国際デザインワークショップ

Go-yukkuri

企業×SUAC×イズミル経済大学(トルコ)

参加学生に受講証が
手渡されました



Go-yukkuriとは？

トルコ・イズミル経済大学との交流事業として静岡県や企業（スズキ、ヤマハ発動機、トヨタ車体、東芝）との共同で地域産業の役割とデザインについて提案を行うワークショップ。今年のテーマ、スローモビリティにちなんでgo(行く)+yukkuri(slow)=Go-yukkuri=静岡県で「ごゆっくり」どうぞ。の意味が込められています。

実践による学びで、できること・身につく力

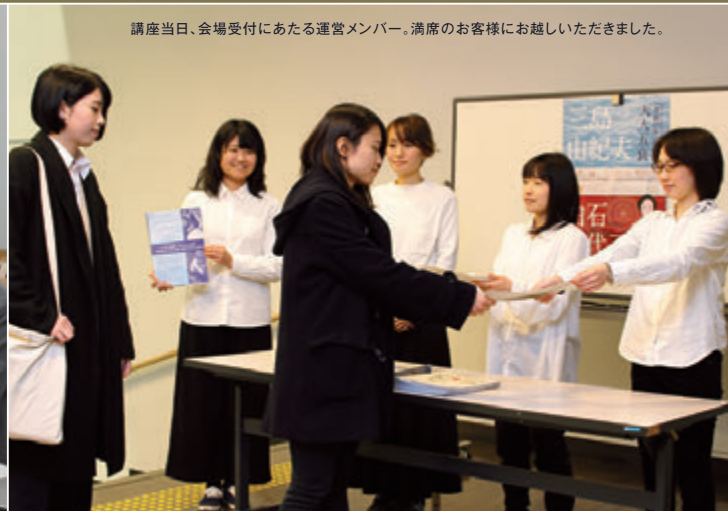
- 協調性、マネジメント力
- 英語力、コミュニケーション力
- 異文化の理解
- 国際文化学科とデザイン学科の交流
- 社会とつながり発表する力

授業プラス
αの活動

12月の本番に向けて10月から何度も打合せを重ねました。授業外に集まる活動の方が多かったくらいです。



二十五絃箏奏者・作曲家の中井智弥氏と、プロのダンサー・振付師として世界で活躍の大前光市氏のコラボレーションによる独創的なステージ。



講座当日、会場受付にあたる運営メンバー。満席のお客様にお越しいただきました。

新作舞台「天人五衰」のワンシーンを終え、本講座・公演を企画・プロデュースした永井聡子先生を交えてのメイキングクロストーク。興味深い話が聞けました。



中井智弥氏による独奏。繊細かつダイナミックな等の音色が客席を魅了しました。

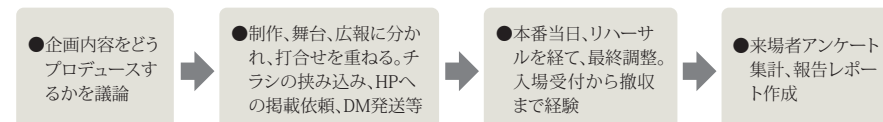


みんなでやり遂げた！その達成感は大きい

『演劇×音楽×ダンス』プロを迎え、公開講座の運営に挑戦

芸術文化学科の「劇場プロデュース論」(担当:永井聡子准教授)の一環として、静岡県清水文化会館マリナートで公演された三島由紀夫原作・演劇「天人五衰」の舞台メイキング講座で、15名の学生が運営にあたりました。制作・舞台・広報の班に分かれ2カ月前から準備スタート。広報班は、出演者を紹介する動画やCDを学内で流し、チラシの挟み込みやDM送付等を実施。制作班は、パフォーマンスを行うステージや座席の配置をゼロから考え、劇場空間づくりに挑戦。当日の照明や音響は舞台班の学生が担当しました。リハーサルが本番当日という厳しい状況の中、数々の変更にも対応しながら、プロの方々との仕事を体験しました。出演者にもお客様にも満足のゆく舞台空間づくりの厳しさ、面白さを、実践を通して学びました。

プロの出演者を迎え、講座の運営をプロデュース



特別公開授業を学生が運営

舞台メイキング講座

芸術文化学科・学生 × 演劇公演「天人五衰」

(劇場プロデュース論)



告知用ポスター

実践による学びで、できること・身につく力

- 受講者に主旨をわかりやすく的確に伝える力
- 学外の機関と交渉する力
- 本番当日の連携、柔軟な対応力
- メンバーの意見を調整、協働していく力
- 全体を見渡し、考える力
- プロの出演者と仕事として関わる経験値

授業プラス
αの活動

物件見学後、リノベーションプランを構想。資料作りから模型作りまで、学生たちが分担して作業を行いました。



34年前のコンクリートを見せること、大きな梁を活かすことなど、リノベーションならではの新たな価値やオリジナリティを追求しました。



浜松の素材を外壁や内装に取り入れるなどコンセプトに結びつけた提案もできました。



実施計画の段階で、現場での調整やスレによって図面通りいかないことや、その時に解決策を求められる大変さなどもありました。



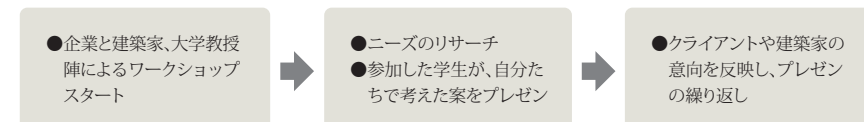
大学での課題と違い、実際に作り上げるというルールや限られた予算の中で考える、リアルな学びにつながりました。

古い建物を再生して、新たな価値を

学外の学生とチームを組み、提案と実現のプロセスを学ぶ

築34年の賃貸マンションの一室をリノベーションするワークショップに、学校の枠を超えたグループの活動として、SUACからもデザイン学部の学生有志が挑戦。5チームに分かれて最終審査まで全3回のプレゼンを重ね、選ばれたリノベーション案による2室が完成に漕ぎ着けました。定期的にメンバーで集まり、意見を調整しながら、コンセプトメイクや設計デザイン、資料や模型を制作。プレゼン時に建築家のアドバイスが受けられたことも貴重な体験となりました。実施設計に向けて、フローリング素材として提案した天竜杉や、引き戸に活用する遠州織物に関する追加リサーチも行い、浜松の産業や文化にも触れる深い学びにつながりました。2017年2月から入居受付の予定です。

実際の依頼、現実の成果、リアルな成長



賃貸マンションの一室を改築

リノベーション
デザインワークショップ

デザイン学部 学生有志×寺島レジデンス
(浜松市中区寺島)



実践による学びで、できること・身につく力

- 大学生による賃貸マンションのリノベーション
- 大学生によるリサーチ、プラン提案、設計
- 他大学の学生との協働、チームワーク力
- 現場で施工時に、内装などの作業サポート



学内でもタベボラを3日間限定で開いたところ大好評！SUACのサークルとも連携し、多くのSUAC生がフェアトレードを知るきっかけになりました。

ASIA MUSIC FESTIVALに出店。大きいイベントだったので、多くの方にフェアトレードについて伝えることができました。メンバーもにっこり！楽しめました。

カフェに出す新メニューをワイワイガヤガヤとみんなで試作。美味しくなるように、伝わるように、気持ちを込めて作っています。

一番人気はコーヒー。店頭で私たちの手で心を込めて淹れさせていただいています。フェアトレードのコーヒーを通して、いろんな思いが皆さんの心にも届きますように。



2016年5月
2m超えの竹や雑草が占拠した耕作放棄地。



2016年7月
ようやく田植えが終了！品種は九州生まれの「にこまる」。



2016年10月
ついに稲が実りました！黄金色の田んぼを見るだけで・・・感無量。



2016年11月
OBに手伝ってもらい、みんなで稲刈り。あとひと踏ん張り！



2016年12月
地主の仲井さんに教わりながら脱穀。お米ってこうやってできるんだね。



2017年1月
デザイン学部の有志の学生が商品パッケージを制作。学内の生協にて販売しました。

食べてボランティア！気軽にできる国際協力！

中山間地域をもっと元気にしたい！

つくる人も食べる人も幸せになれる、ものづくりの循環を

JR浜松駅前地下広場に、毎週日曜日に出現する「タベボラ」は、学生たちが運営するオープンカフェ。フェアトレードショップから購入したコーヒー豆や紅茶を淹れながら、お客様との会話を通して、フェアトレードへの理解や国際協力の輪を広げることを目的としています。文化政策学部の学生が考えたことを、デザイン学部の学生がカタチにする、SUACならではの活動で、浜松市への協力交渉や、店舗ブースの制作、会計、料理等、すべて学生たちで役割分担。利益が出ない価格設定で運営し、集まったお金は経費やイベント費にしています。最近は常連客も増え、フェアトレードの認知度向上に手ごたえを感じているところ。生産者と消費者をつなぐという観点から、地元の農家から仕入れた無農薬野菜で作るメニューも提供し、地産地消にも取り組んでいます。※「タベボラ」は食べることとボランティアの造語です。

フェアトレードの啓発活動をする学生が運営するカフェ

タベボラ 1号店 浜松駅地下

学生有志 × 浜松市役所（協力）



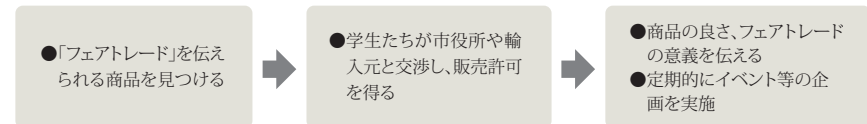
この冬、無農薬野菜のポトフを新メニューに追加しました

フェアトレードとは？
直訳すれば「公平な貿易」。開発途上国で作られた作物や製品を適正な価格で継続的に輸入することによって、生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易の仕組み」です。

自主的な活動で、できること・身につく力

- 大学生によるフェアトレードの啓発活動
- 大学生によるカフェの運営
- 役所や企業との直接交渉で、実社会を学ぶ
- 予算管理からイベント企画まで、自主運営のためのマネジメント方法を学ぶ

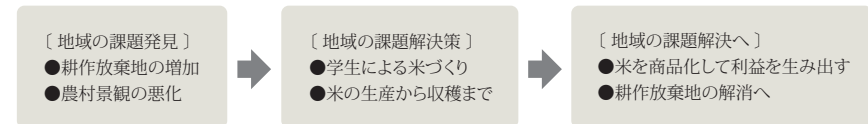
人や社会を、よりよく変えていく、面白さと喜び



先輩も後輩も巻き込んで、棚田で米づくりに挑戦

浜松市北区引佐町にある久留米木の棚田は、「日本の棚田百選」の一つに数えられ、美しい農村景観で知られていましたが、近年は、農家の高齢化などにより、耕作されない棚田が増加。農村の課題となっていました。そこで、豊かな棚田を蘇らせようと、「引佐耕作隊」を結成し、耕作放棄地で米作りに取り組んだのが、文化政策学科の船戸ゼミに学ぶ学生や卒業生たち。標高約250mという里山に拓かれた棚田500m²で、草刈り・田植え・収穫など初めてづくしの農作業にチャレンジ。約8か月かけて米づくりの作業を体験しながら、地元の人と交流を通して農村が抱える課題を肌で感じることができました。さらに、デザイン学部の学生の協力でお米のパッケージを制作。「棚田の恵」と命名し、1袋（2合）300g400円で商品化し、442袋を大学生協などで販売し、完売することができました。

「大学生が米づくりで稼ぐ」ビジネスモデルで課題解決



久留米木の棚田 耕作放棄地再生プロジェクト

い な さ **引佐耕作隊**

船戸ゼミ×久留米木（浜松市北区引佐町）



1袋（2合）300g400円にて販売開始を告げるポスターも制作



自主的な活動で、できること・身につく力

- 地域を調べる 意見を引き出す
- 米づくり 耕作・スケジュール管理
- パッケージデザイン
- 販促計画、予算管理



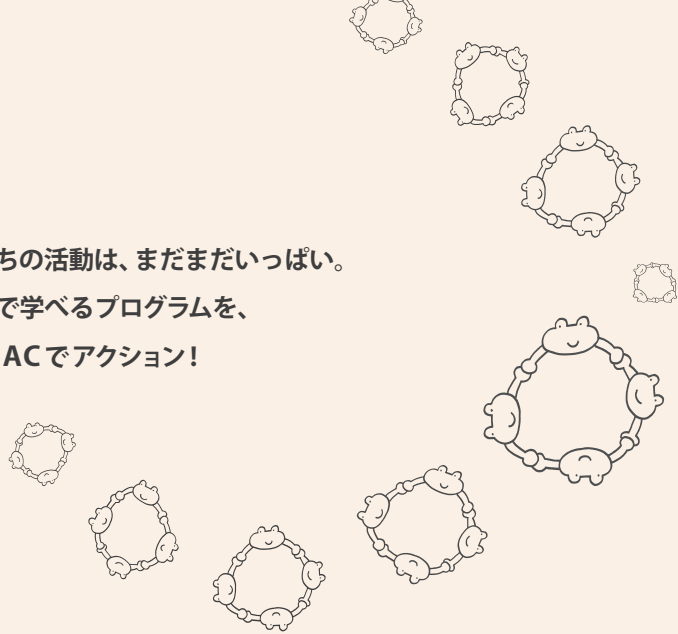
SUACTION Report

SUAC実践型×自主型の豊かな学び

文化・政策・デザイン・アートで社会を動かす、学生たちの活動は、まだまだいっぱい。

このほか、実践演習や授業、課外活動を通じて実社会で学べるプログラムを、

大学公式サイトで公開しています。さあ、あなたもSUACでアクション！



◆ 伝統素材を活性化「つむぎ女子プロジェクト」

地域の伝統素材である遠州綿紬を活性化させようと、地元の百貨店、企業、SUACの三者が共同で商品開発を行い、販売を目指す「つむぎ女子プロジェクト」。若者を呼び込みたい百貨店のニーズと、遠州綿紬の魅力を広めたい企業の思いに、学生たちに実践的な教育機会を提供したいという大学のポリシーが共鳴し、学生たちが若い感性を活かした商品開発を行いました。



◆ 地域PR番組制作プロジェクト

SUACの活動や浜松周辺の産業、歴史、文化などをPRするテレビ番組「キャンパス・ノート～文芸大春秋～」を制作するプロジェクト。季節ごとに年間4本の番組を制作し、地元ケーブルテレビ局で放送されています。番組の企画からPR原稿の作成、現地の取材、撮影、インタビュー、映像編集作業まで、すべてを学生が行い5年間で20本を制作。学生目線での番組づくりが視聴者にも好評です。



◆ アクト通りにぎわい創出プロジェクト

JR浜松駅に隣接するアクトシティ浜松からSUACに続く街路「アクト通り」は、噴水や照明などが美しく、都市景観賞も受賞しているが、市民の活用度がイマイチ。そこでにぎわい創出のために、浜松市が「アクト通り利活用事業実行委員会」を組織し、SUAC生も参画。学生ならではの視点で、活性化の企画やアイデアを立案し、地域の文化政策やデザインを実践的に学ぶ絶好の機会になっています。



◆ 授業でトイレットペーパーを商品開発

2016年度の3年生の必修科目「企画立案総合演習」において商品開発した、天竜材をPRしたトイレットペーパー「お木づかいペーパー」を制作、販売しました。市内の全小学校にサンプルを配付し、木を通じた環境教育のきっかけづくりを行いました。この「お木づかいペーパー」は、平成28年度林野庁の「ウッドデザイン賞」を受賞しています。



◆ 市民向けの「能楽公演」を学生が企画・運営

芸術文化学科でアートマネジメントを学ぶ学生を中心にチームを組み、毎年10月に一般市民向けの「能楽公演」を企画・運営しています。教員の指導のもと、能の曲や狂言の演目の選定から、ポスターデザイン等の広報、当日の運営まで行います。昨年は学生が脚本を書き上げた狂言が、大学オリジナルの新作狂言として、一流の狂言師により演じられ、観客から好評を得ました。



◆ 川根本町の景観計画・景観デザインへの提案

町域の90%以上が森林で人口減少や高齢化が進む川根本町が抱える、観光地としての認識が薄いという課題の解決にデザイン学部黒田ゼミ生が挑戦。役場の協力を得て、地域の魅力向上のための景観計画に参画し、地元の人々が心地よく感じられ、訪れる人々が再訪したい、定住したいと感じられる景観デザインの色彩ガイドラインを、観光客目線、若者目線、デザインを学ぶ学生目線から調査、提案しました。

一步、踏み出すきっかけを、見つけよう。

SUACが開学当初から変わることなく重きを置いているのが「実践的な学び」です。自由な校風の中で、多くの先輩たちが自主的な活動をしている一方で、その機会に恵まれないまま卒業していく学生たちもいます。学生の誰もが「あと一步」を踏み出す、そのきっかけの場となるよう、卒業に必要な必修科目として仕立てたものが実践演習プログラムです。「文化政策」と「デザイン」の2つの学部の学生が交流することは、お互いの発想法の違いや異なる考え方に会い、社会性に目覚める機会ともなります。学生たちが、大人の社会と関わり、予期せぬ出来事に遭遇しながらも、最後までやり遂げたその先には、大きな達成感が待っています。踏み出す、その一步に戸惑う学生たちの、背中を押すのも私たち大学の使命。たくさんの方のチャンスを留意してみなさんを待っています。



静岡文化芸術大学 副学長
池上重弘



◆ 公園の展望施設を空間造形学科がデザイン

静岡県交通基盤部港湾局からの依頼を受け、「ふじのくに田子の浦みなと公園」に建つ展望施設（シンボルタワー）について、空間造形学科有志が基本デザインの提案を行いました。2016年1月から3月に3回にわたる知事プレゼンテーションを経て基本デザイン提案を完成させ、実施設計のデザイン監修も行っています。



◆ 国際文化学科の学生が「フードバンク」に挑戦

貧困世帯層への支援と廃棄食品の削減を目的として、SUAC生がフードバンクの取り組みに挑戦中。学内で賞味期限が近づいた食品や不要となった食品の提供を呼びかけ、回収した食品を、県内の特定非営利活動法人を通じて、静岡県西部地域の必要としている方々に提供するものです。主催の学生たちと教職員・学生の協力で多くの食品が集められています。



◆ 「新聞カフェ」@静岡文化芸術大学を開催

学生が決めたテーマをもとに、中日新聞社の記者たちと関連記事を読み、議論をする「新聞カフェ」を開催。テーマは「防災・被災者支援とメディアの関係」や「18歳選挙権」などの社会的なものから「文系のいいところって？」など教育に関することまで様々です。平成28年度は6回開催し、うち2回は、他大学の学生や県内の高校生も交え、より幅広い視野で活発な議論を行いました。



◆ 音響・照明技術研究会「p@tch code」の活動

音響・照明技術研究会のクラブ活動をしている「p@tch code(パッチコード)」は、SUAC公認クラブ。入学式、卒業式などのほか、大学祭や音楽イベントの音響・照明を担う、いわばセミプロ的な存在で、音響・照明の業者や先輩からの技術を学びながら、イベントや舞台を支えています。実際に音響・照明の企業に就職した卒業生から、クラブ活動で培った実践が役立ったとの声が届いています。



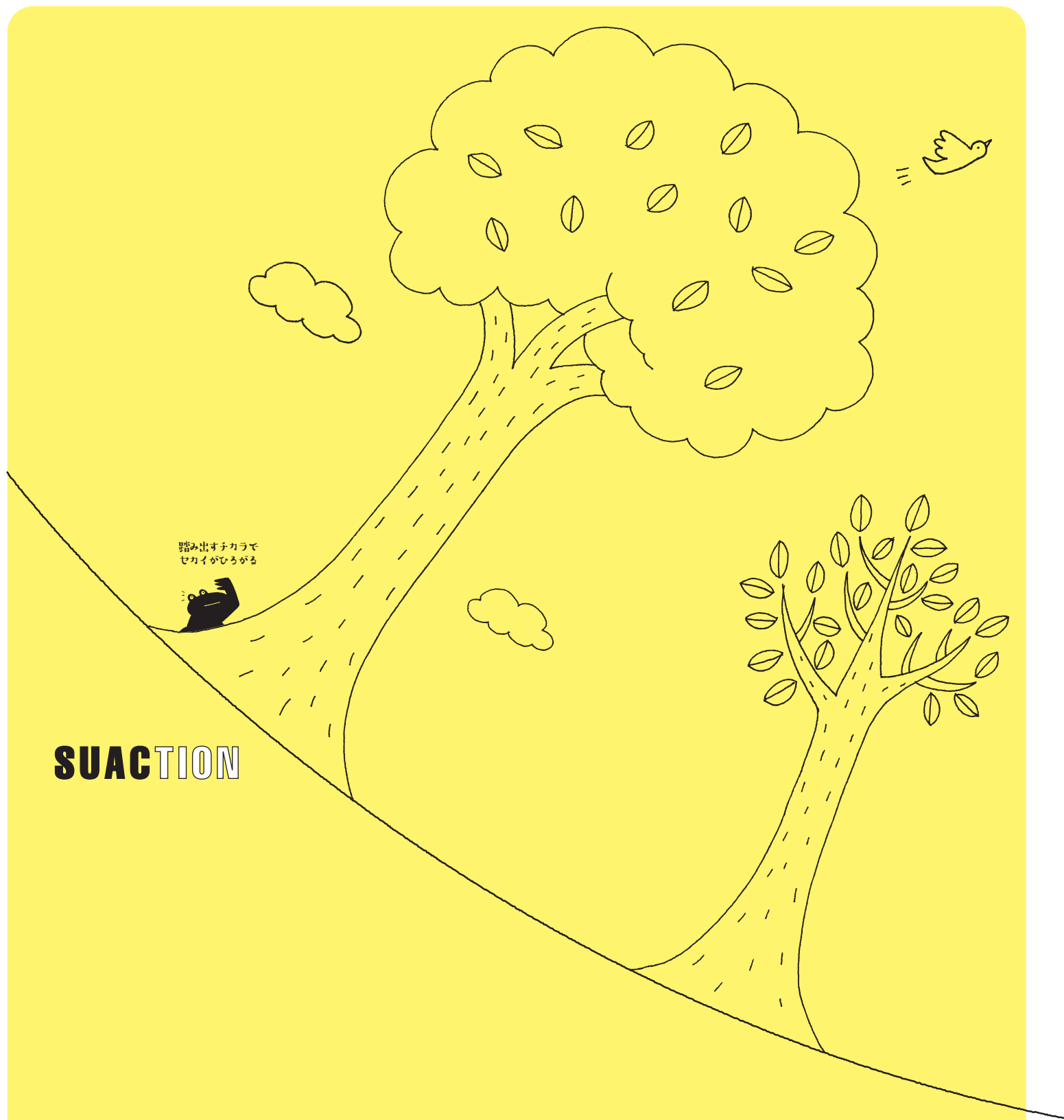
◆ 「浜名湖アートクラフトフェア」でワークショップ

2日間で来場約4万人の国内最大級のアートクラフトフェアで人気の、デザイン学部生約40名による体験ワークショップ「アルミニウム鋳造体験」。学生は安全性やクオリティを追求し、何度もワークショップの練習を重ねて準備します。当日、来場者と、ものづくりの楽しさを共有した瞬間、運営する学生にも喜びと達成感が生まれ、学びのモチベーション向上につながっています。



◆ 浜松市動物園のサインを実践「ZOOPIC」

浜松市出身の学生が、動物園の職員から相談されたことをきっかけに、デザイン学部の1年生20名でプロジェクト「ZOOPIC」を結成。園内の案内表示（サイン）の新たな提案に取り組みました。来場者からの評価を反映させるなど、ブラッシュアップした作品で、浜松市や動物園関係者にプレゼンテーションを実施。浜松市と協議のうえ、動物園のサインに学生の提案した作品が採用される予定です。



SUACTION



SUAC

公立大学法人
静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

Faculty of Cultural Policy and Management / Faculty of Design

<http://www.suac.ac.jp/>